

下肢静脈瘤について

医療法人弘英会 琵琶湖大橋病院
循環器内科 副部長 寺田 和始

日本内科学会 認定内科医・総合内科専門医

日本循環器学会 循環器専門医

日本心血管インターベンション治療学会 認定医

日本脈管学会認定 脈管専門医

下肢静脈瘤に対する血管内治療実施基準による実施医

下肢静脈瘤とは・・・

下肢静脈瘤は静脈の病気で、下肢にボコボコとした血管が浮き出る病気です。直接命に関わるようなことはありませんが、自然に治ることはなく徐々に進行します。症状としては痛みや掻痒(かゆみ)、こむら返り、だるさ、むくみ等が見られます。重症化すると下肢に色素沈着(皮膚が黒ずむ)や難治性の皮膚潰瘍等が見られます。



軽症例



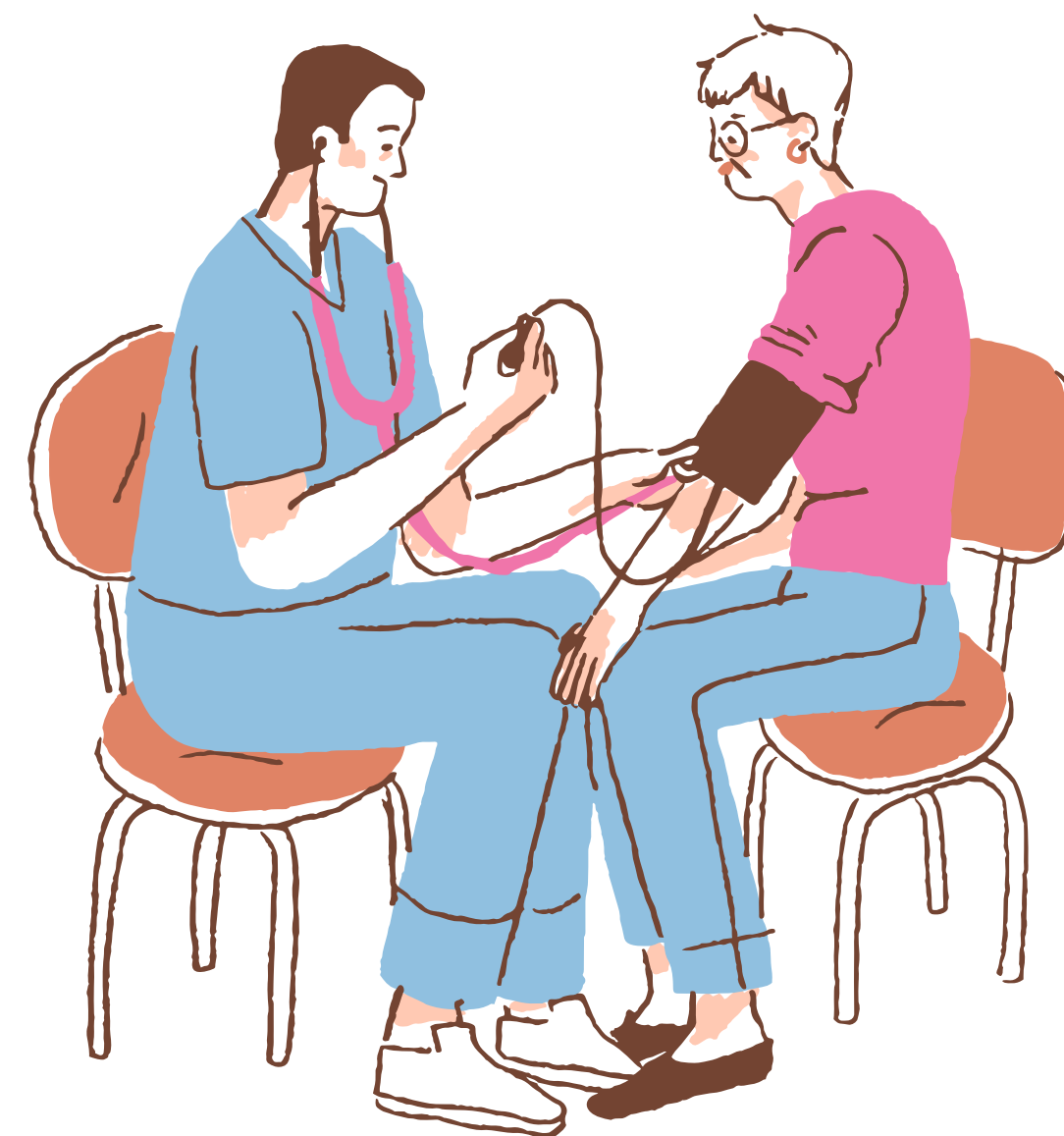
治療が必要となりうる状態



重症例（潰瘍）

下肢静脈瘤の原因

- 下肢の静脈には筋肉よりも内側を走行する「深部静脈」と皮膚と筋肉の間を走る「表在静脈」があり、静脈瘤ができるのは皮膚に近い「表在静脈」です。
- 下肢の静脈には血流が重力によって足先へ逆流しないように弁がついていますが、それらの弁が壊れると正しく閉じなくなり、血流の逆流が起こり、うっ血が生じて血管の拡張や蛇行することによって瘤（こぶ）ができます。これが下肢静脈溜です。下肢静脈瘤があると、足の血液循環が悪くなっているので、足のむくみや痛み、色素沈着や皮膚の潰瘍などの症状が出てきます。



下肢静脈瘤が発生しやすい方

- 下肢静脈瘤は男性より女性に多く見られます。また、長時間の立ち仕事（美容師、調理師、販売員など）に従事する方に非常に多く、また年齢とともに進行しやすくなります。肥満、高血圧、糖尿病の方なども注意が必要です。また、遺伝的関与もあり、家族や親戚に静脈瘤のある方に起こりやすいと言われていきます。
- 日本において30代以上の男女の10.5%、約940万人が下肢静脈瘤の疑いがあるというデータがある一方で治療を受けられた方は弾性ストッキングなどの保存的治療を含めても100万人と少なく、大半の方が症状を有しながらも医療機関を受診されずに過ごされています。

下肢静脈瘤の検査

下肢静脈瘤の検査で痛みを伴うものはありません。基本的には血管エコーにて診断を行います。エコーでは、皮膚の上からプローブという器具を体表に当てることで血管の形態や、血流情報をリアルタイムで判別します。下肢静脈瘤に逆流があるかどうかを判断するために必須の検査であり、当院でも来院された方全員に受けて頂くこととしています。



下肢静脈瘤の治療

- ① 保存的治療
- ② 血管内焼灼術
- ③ 血管内塞栓術（グルー治療）



① 保存的治療

軽症の方は、弾性ストッキングという圧迫用ストッキングを着用することで静脈瘤による症状軽減が期待できます。

外来で下肢のサイズを測定してご自身に合ったサイズの医療用ストッキングの購入を提案させていただきます。

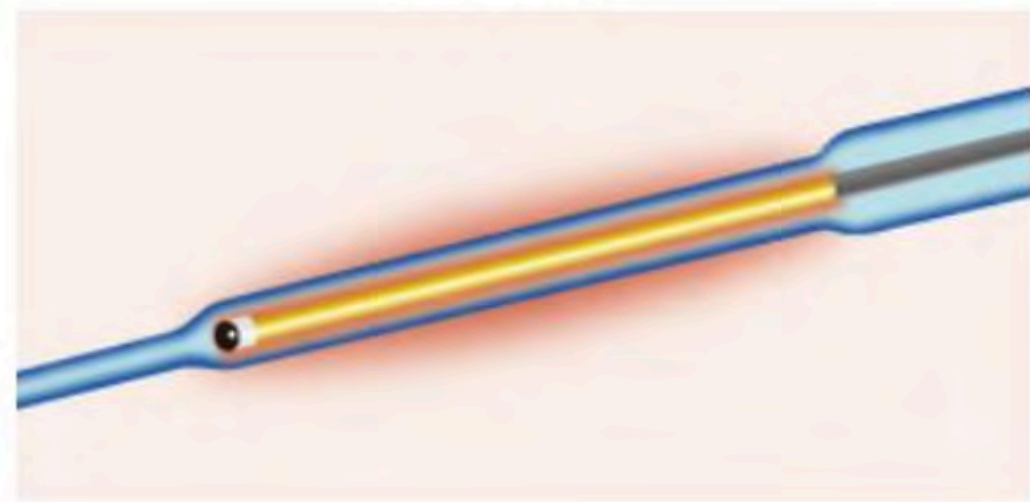
今まで着脱が難しく断念されていた方や、購入を勧められたものの何を買えばよいのかわからなかった方にも丁寧に説明し出来るように指導させていただきます。



②血管内焼灼術

- 従来は外科的治療としてストリッピング手術や高位結紮術が行われていましたが、術後の疼痛や手術侵襲の大きさから最近はごく限られた患者さんでしか行われません。
- 血管内焼灼術は、下肢静脈を穿刺し、カテーテルを挿入し焼いて塞いでしまう治療であり、傷もごく小さくて済みますし、手術時間も短くて済みます。
- 当院では高周波治療を行ない、術後の痛みや腫れ、皮下出血（紫斑）を軽減します。手術当日に入院して頂き、翌日には退院可能です。

高周波治療



③血管内塞栓術(グルー治療)

- グルー治療は日本ではNBCA（N-BUTYL-2-CYANOACRYLATE；ヒストアクリル）という瞬間接着剤を静脈内に注入して血管を閉塞する方法です。
- 熱を発せず、病気になった下肢静脈を閉塞させることができ、熱による神経損傷の危険性がなくTLA麻酔も使用しないので、よりシンプルで低侵襲な治療が可能になりました。

